

学会名	震災対応活動
応用統計学会	<p>3月12日：応用統計学会員へのお見舞いMLで通知 3月18日：リスク研究ネットワーク加盟40組織に統計数理研究所リスク解析戦略研究センター，並びに応用統計学会から震災関連行事共催打診 3月30日：横幹連合出口光一郎副会長（現会長）より応用統計学会長に4月25日緊急シンポジウム協力依頼、直ちに受諾</p> <p>4月10日：鈴木JSQC会長より，緊急懇談会4月26日共催を応用統計学会長に打診、直ちに受諾（実際には、5月28日開催） 4月15日：横幹連合へ応用統計学会長としてアンケート回答 4月18日：応用統計学会長としての上記アンケートで回答した3提言について応用統計学会員に意見聴取開始（Junkメールとして扱われ，通達は5月16日） （4件の応答、うち1件は現職文科省の方） 4月25日：横幹連合緊急シンポジウム（東京大学山上会館）に応用統計学会長がパネリストとして登壇3つの提言を行う。</p> <p>5月6日：統計関連学会連合理事会へ応用統計学会から6月2日原発事故の健康影響をテーマとする懇談会提案 5月28日18時-21時：日本品質管理学会，応用統計学会：震災懇談会（電気通信大学、30名）日本統計学会岩崎理事長，プロジェクトマネジメント学会，品質工学会なども参画</p> <p>6月2日：統計関連学会連合拡大理事懇談会（大阪大学医学部）、柴田義貞氏からの意見聴取を基に、今後の提言について検討（6学会幹部25名）</p> <p>9月4日：応用統計学会理事会でシステム信頼性などについてのWS企画の検討 9月4日：統計関連学会6学会からなる統計関連学会連合大会において震災特別セッションを企画開催（九州大学）、250名以上が出席 9月6日：統計関連学会連合理事会において、今後もこの種の取り組みをおこなうことについて合意</p>
経営情報学会	<p>【2011年春季全国研究発表大会(5.28-29)】 特別セッション「災害と情報支援（オーガナイザー平野雅章）を開催。 震災に対して情報システムがどのように支援できるかの4件の報告とパネルディスカッションを実施。</p> <p>【2011年関西支部第2回研究会(7.1)】 特定非営利活動法人関西情報化維新協議会と共催で「神戸で考える震災と情報支援」をテーマに開催。 問題提起と課題整理の上，「被災地の現状と情報システムの観点から見た課題」と題する報告，現地調査報告の後，「関西からできる情報支援は何か？」を全員討議。結果は学会フォーラム誌に掲載予定。</p> <p>【2011年秋季全国研究発表大会(10.29-30)】 特別講演(10.29)：「クラウドソースによる復興支援プラットフォーム、sinsai.infoについて（関 治之）」</p>

計測自動制御学会	<p>【会告 (6.13)】</p> <p>1. 基本方針</p> <p>①システム設計に際して、設計条件やダメージチェーンの分析等、今回の事態に対する学術的な解析と、</p> <p>②災害に強いプラント・社会の構築に向けた新しい設計指針と個別の技術開発に対して、社会の要請に応えうる具体的な成果・提言を行います。</p> <p>2. 個別の活動に対する指針</p> <p>2. 1 研究組織体の立ち上げ</p> <p>理事会主導のもとに新たな研究組織体を構成し、速やかに成果を社会に発信する。また、既存組織の中での関連活動を積極的に支援します。</p> <p>2. 2 個別の学会活動に対する基本指針</p> <p>① 創立50周年記念行事：計画通り実施② SICE 2011ならびにSICE 2012（秋田大学）：原則として、計画通り実施</p> <p>3. 被災地域の会員への配慮</p> <p>4. 関連学術団体等との連携</p> <p>関連学術団体とも連携し、上記の基本方針に従い、東日本震災に関するアクションを積極的かつ適切に対応します。</p> <p>【東日本大震災3.11を風化させないためのパネル・ディスカッション・シリーズ】</p> <p>第1回 (7.22 10:45-12:15) 「東日本大震災を契機にオートメーションのあり方を問う (計装エンジニア討論)」ARCジャパン主催、SICE協賛</p> <p>第2回 (9.13 13:15-15) 「After3.11我々はどう行動すべきか (SICE会長経験者を中心とした学術界メンバー討論)」</p>
研究・技術計画学会	<p>【第26回シンポジウム (7.23)】</p> <p>-テーマ-</p> <p>日本産業再興のための戦略的な技術経営 — 危機を乗り越え、新興国市場展開とエマージング産業創出へ —</p> <p>-講演概要-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 「日産における技術開発と電気自動車」 ・特別講演 「東日本大震災からの復興と新産業創造」 「危機を乗り越え、イノベーションを」 「日本産業再興のための戦略的な技術経営： 大震災を教訓にサプライチェーン・マネジメント強化」 「近未来におけるスマートグリッドのインパクト」 ・パネル討論 「震災復興後のパラダイム変換は可能か」 <p>【第26回年次学術大会 (10.15-10.16)】</p> <p>-震災関連のホット 이슈ー-</p> <ul style="list-style-type: none"> 「科学技術不信の下での科学技術コミュニケーション」 「危機状況下のマネジメント ～ 今あらためて問う技術経営とCTO論、その役割と重要性」 「新たな地域自立政策とイノベーション」 「科学技術は復興の役に立つのか」
行動経済学会	<p>【情報提供ページ開設 (4.27-)】</p> <p>行動経済学会の先生方の多くが、震災後の課題への政策提言を公表されています。行動経済学会では、そうした学会員の方の提言や意見を、行動経済学に関心のある多くの方に知っていただくために、行動経済学会ホームページを通じて紹介することといたしました。</p> <p>【シンポジウム (8.24 18-20)】</p> <p>「行動経済学で地震に備える」大阪大学社会経済研究所 行動経済学研究センター主催、行動経済学会ほか共催</p>
システム制御情報学会	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対応システム調査研究交流会の設置 ・公開シンポジウム「震災復興にむけて ロボット技術のいま」 (主催：対災害ロボティクス・タスクフォース)への協力 <p>http://www.iscie.or.jp/j/index.php?%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%BA%A4%E6%B5%81%E4%BC%9A</p> <p>http://roboticstaskforce.files.wordpress.com/2011/05/symposium_leaflet20110502.pdf</p>

<p>日本オペレーションズ・リサーチ学会</p>	<p>【2011年秋季研究発表会（9.15-16，於 甲南大学）】 特別セッション：「震災復興・日本再生—都市のOR研究による道筋—」，2日間に渡り、15件の発表報告とパネルディスカッションを実施 【学会誌：オペレーションズ・リサーチ(12月号)】 特集号テーマ：「東日本大震災：OR手法活用への期待」，関連した9件の記事を掲載予定 【第67回シンポジウム（2012.3.26）】 テーマ：「災害対処の施策とOR」，場所：防衛大学校 【2012年春季研究発表会（2012.3.27-28）】 特別テーマ「東日本大震災；復興への道とOR」，場所：防衛大学校 〈上記問合せ先：日本オペレーションズ・リサーチ学会事務局，tel: 03-3851-6100，e-mail: jimukyoku@orsj.or.jp，HP: http://www.orsj.or.jp/〉</p>
<p>日本感性工学会</p>	<p>(大会9.3-5では震災関連講演が数件見られる)</p>
<p>日本経営工学会</p>	<p>【春季大会（5.28-29）】 特別セッション(5.29 11:10-12:10) 災害と経営情報基盤</p>
<p>日本行動計量学会</p>	<p>【日本行動計量学会第39回大会(9.11-14)】 特別企画シンポジウム(9.13 15:30-17:45)「災害報道と行動計量学」 【その他】 被災地区学会員2011年度年会費および大会参加費免除</p>
<p>日本シミュレーション学会</p>	<p>【30th JSST Annual Conference 2011年10月22日23日)】 日本シミュレーション学会では、10/22, 23にて東海大学にて30th JSST Annual Conferenceを開催する。そこで、下記の内容についてOS1(TBD) Emergency Wired/Wireless Communication Systems on Disasterを開催し、これからの緊急通信システムについて議論を開催し、次の防災通信システムの在り方について議論を行う。 【論文誌小特集第30巻2号 2011年6月)】 日本シミュレーション学会では、「原子炉のシミュレーション」にて原子力発電所の原子炉のシミュレーションに関する特集号を論文で発行した。内容は1. 総括 2. 原子力発電施設の大規模耐震シミュレーションの進展 3. 放射線環境下における材料損傷シミュレーション 4. 二相流詳細シミュレーション 5. 高速炉の熱流動シミュレーション 6. 核燃料の第1原理計算 7. シミュレーションの検証と妥当性確認。この研究成果は今後の、原子炉のトラブルなどの課題に対して大きな研究課題を提供するばかりでなく、新たな原子炉の可能性、事故に対する対応などについての示唆を与えることとなる。</p>

<p>日本社会情報学会 (JASI)</p>	<p>【関連論文・発表情報提供(2011.4-)】 東日本大震災に関する日本社会情報学会からの貢献：学会誌及び大会論文集所収の関連論文のご紹介 【チーム派遣】 日本社会情報学会(JSIS)では、危機に直面する地域社会への情報技術貢献の観点から、所属の若手研究者・大学院生・大学生が集まり、災害情報支援チーム(BJK)を結成して、被災地の支援活動にあたっています。特に面積の50%が津波で浸水し、人口の半数近くが被災しつつも、そもそも情報インフラが貧弱であった過疎地である宮城県亘理郡山元町に支援地を絞り、ITを失った地域社会に、ITを導入し直して貢献するために、積極的な支援活動を行っています。 【JASI特別企画ICTフォーラム2011(6.18 14:30-16:00)】 「東日本大震災と災害情報」 【2011年日本社会情報学会(JSIS&JASI)合同研究大会 (9.9-11)】 公開シンポジウム(9.9 14:00-17:00)「東日本大震災から何を学ぶか? : 災害と社会情報学」 プレカンファレンス(9.9 17:30-19:30)「JSIS-BJK災害情報支援チーム 派遣隊 リーダーズトーク」 WS5(9.9 10:00-12:00)「地域におけるメディア連携とガバナンス」(於掛川市) WS3(9.10 10:00-12:00)「被災地・山元町の現状と未来、そしてコミュニティラジオ」 WS4(9.11 9:30-11:30)「街の思い出サルベージアルバムオンライン」 III-2(9.11 14:00-16:00) (災害時の)情報の共有・地域情報1 IV-2(9.11 16:10-18:10) (災害時の)情報の共有・地域情報2</p>
<p>日本生物工学会</p>	<p>【情報共有呼びかけ(3.24-)】研究者の皆様へー被災状況報告及び支援情報をお寄せ下さい</p>
<p>日本デザイン学会</p>	<p>【学会メッセージ(4.3)】 会員の安否確認、ならびに救済や復旧・復興支援策、振興策等々、学会として対応可能な課題に対する研究成果の還元や社会貢献をはじめとした支援策の実現を要請(会長発) 【被災会員支援策(4.3)】 被災会員に対する年会費1年間免除 【日本デザイン学会第58回春季研究発表大会(6.24-26)】 オーガナイズドセッションA(6.25 15:10-17:10)「デザインから考えるー東日本大震災の現状と課題」 災害に対する現状把握を基盤として、デザイン学として取り組むべき課題を抽出 【日本デザイン学会平成23年度秋季企画大会(11.12 10:00-17:00)】 テーマ：デザインに何ができるか「1995.1.17-2011.3.11-」 春季大会オーガナイズドセッションの流れを受け、デザインの各領域が過去の震災から何を学んだのか、今回の震災に対して何をなすべきか、何ができるのかを議論し、取り組むべき課題を議論。合わせて震災プロポジション/学生プロポジション(作品展示)を開催し、これらの審議内容を特集号として編纂予定。</p>
<p>日本統計学会</p>	<p>【震災懇談会(5.28)】 日本品質管理学会・応用統計学会主催の震災懇談会(電気通信大学)に岩崎理事長他が参画。 【統計関連学会連合拡大理事懇談会(6.2)】 大阪大学医学部にて、柴田義貞氏(長崎大学)からの意見聴取並びに統計関連学会の幹部の間で今後の取り組みについて懇談 【2011年度統計関連学会連合大会(9.4-7)】 震災特別セッション(9.5 15:30-18:00)「大震災の科学的評価と人間行動」開催 【統計関連学会連合理事会(9.7)】 統計関連学会連合理事会において、統計の立場から引き続き提言などを行なうことを合意。</p>

<p>日本人間工学会</p>	<p>【学会メッセージ(3.28)】 東日本大震災被災者へのお見舞いと人間工学の役割ー日本人間工学会からのメッセージー被災された皆様へ/人間工学と私たちの役割/過去に学ぶこと/今後の新たな社会づくりに向けて (理事長発) 【人間工学専門家認定機構講演会2011(4.22)】 自然災害と人間工学 【緊急意見交換会(4.22)】 今, 人間工学専門家と日本人間工学会は何をすべきか 【理事会決定(5.7)】 被災会員への年会費免除及び被災地での学術集会支援 【会報・人間工学専門家認定機構(5.13)】 報告 平成23年度総会・講演会, 緊急意見交換会 【委員会メッセージ(5.23)】 福島第一原子力発電所事故の調査と責任追及について～事故から最大限の教訓を得るために～ 一般社団法人日本人間工学会安全人間工学委員会 (委員長発) 【人間工学専門家認定機構メッセージ(6.30)】 節電中の作業環境 (照明, 温度) に関する配慮について 【委員会メッセージ(8.30)】 国際人間工学会連合(IEA)のホームページに福島原発事故調査に関する委員会メッセージが英文で掲載される</p>
<p>日本バーチャルリアリティ学会</p>	<p>【災害問題検討特別委員会設置 (5.)】 【合同研究会においてパネルディスカッション「東日本大震災とVR」実施 (6.)】 【第16回日本バーチャルリアリティ学会大会 (9.20-22)】 特別講演: “災後”をリードする情報メディア技術とは何か (御厨貴 東大教授) オーガナイズドセッション: パネルディスカッション「東日本大震災とVR」 オーガナイズドセッション: パネルディスカッション「なぜいま文化が大切なのか」 ～震災の教訓を未来に繋げるために～</p>
<p>日本バイオフィードバック学会</p>	<p>【第39回日本バイオフィードバック学会学術総会6.25-26)】 緊急企画ワークショップ「バイオフィードバックのトラウマへの臨床応用」および一般口演「震災ストレス関連セッション」を開催</p>

<p>日本品質管理学会</p>	<p>1. 東日本大震災に関する支援情報”コーナーの設立 http://www.jsqc.org/0311.html#110411 ・2011年3月25日より現在に至る ・学会HPに“東日本大震災に関する支援情報”コーナーを設立し、被害を受けられた企業の皆様が一刻も早く復旧できるよう、被災地の企業の皆様への品質管理の視点よりの情報提供や提案を学会として募り、当学会のホームページに掲載</p> <p>2. 地震津波_品質関連支援MAPの検討とその結果のWEBを通しての発信 http://www.jsqc.org/110407_map.pdf 2011年3月13日より検討を始め、4月7日にup-loadする。 地震津波_品質関連支援MAPの検討とその結果を学会HPに掲載し、企業のモノづくりに関わる“品質”に関連し、これから先、どのような業務に、どのようなトラブルが生じ得るか、そしてそれにどのように対処すべきかを列挙した。このとき“被災した企業”、“被災した企業とサプライチェーンがつながっている企業”、などの対象企業の区分を縦軸に、そして横軸に、“短期的な視点”、“中期的な視点”、などの考慮すべきタイミングを考えた。</p> <p>3. (社)日本品質管理学会 震災支援懇談会 を開催 共催・応用統計学会 ・2011年5月28日 ・椿広計応用統計学会長、岩崎学日本統計学会理事長、野間口隆郎プロジェクトマネ ジメント学会会員を含む25名が参加。学会会員の枠を越え、意見交換をおこなう。</p> <p>4. (社)日本品質管理学会よりの7つの提言を発信すべく検討中 ①パレート最適に基づくシミュレーションと意思決定 ②源流管理を基盤とする予測に基づく未然防止 ③太陽光発電システムの信頼性と保全性 ④日本特別区による海外よりの企業誘致 ⑤原子力以外の巨大インフラ（新幹線・東名など）への未然防止 ⑥企業トップへの未然防止コスト基準の提案 ⑦初等中等教育におけるデータに基づく問題解決力向上 上記の現時点までの検討結果を3ページ目に示す。</p> <p>5. “大規模社会インフラ企業への未然防止活動アンケート調査”を実施中</p>
<p>日本リモートセンシング学会</p>	<p>【震災関連リモートセンシングデータリンク集提供 (4.8-)】 1日も早い復旧と復興のために、航空機や衛星によるリモートセンシングデータのリンク集を作製いたしましたので、ご利用ください。</p> <p>【義捐金報告 (8.9)】 【第51回 (平成23年度秋季) 学術講演会開催のお知らせ】 平成23年11月10日(木)～11月11日(金)、弘前大学創立50周年記念会館、震災への対応についての特別セッションおよびポスター展示を行う。</p> <p>【学会誌Vol.31 No.3】 ASTER の熱赤外センサ、ひまわり7号 (静止気象衛星) 及び高分解能衛星を使用した災害把握の可能性や適応性を速報。</p> <p>【「東日本大震災における当学会の活動」について(9.9)】 今回の震災では、これまでの経験を生かし、被災前後の観測画像による被災状況確認、巨大津波による浸水域の把握等でリモートセンシングデータが実利用に供されました。また、住家被害認定の迅速化の為に衛星画像が利用され、損害賠償支払い時間の短縮にも貢献する等、生活に密着した利用もなされました。一方、地震による地殻変動では、電子基準点を利用した計測に加えて、観測衛星データを利用した差分干渉解析が地殻変動の面的把握に利用される等、測位衛星との複合利用も行われました。これらの活動を通じて今後想定される大規模震災の発生に対し、その予兆監視、減災対策等リモートセンシング技術を通じて社会貢献を推進する道筋を会員の皆様と共に考えていきたいと思っております。</p>

<p>日本ロボット学会</p>	<p>【roboticstaskforce対災害ロボティクス・タスクフォースの公式ブログ(4.18-)】</p> <p>ロボット技術に 関連する複数の学術団体に所属する科学者・研究者・技術者が連携し、東日本大震災およびそれに伴う福島原子力災害に対してロボット 技術を適用し、災害対策・復旧・復興に貢献したい、という強い思いのもと、ロボット技術の提供、現場での導入・運用支援、そのための技術情報の発信を行うための対災害ロボティクス・タスクフォースを設立いたしました。今後、災害対応のためのロボット技術適用に関する技術情報を共有し、逐次、HPにて公に情報を発信いたします。</p> <p>【第29回日本ロボット学会学術講演会(9.7-9)併設行事】 震災対応ロボティクス・シンポジウム(9.6 13:00-16:00)</p> <p>【その他】</p> <p>当学会では、下記のURL：東日本大地震関連サイトを4月に立ち上げ、 http://www.rsj.or.jp/shinsai/index.html 超学会組織「対災害ロボティクス・タスクフォース」 http://roboticstaskforce.wordpress.com/ 特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構 http://www.rescuesystem.org/ との連携で、各種情報交換・公開の活動を行っております。 また、9/6には、第29回日本ロボット学会学術講演会の併催行事として、震災対応ロボティクス・シンポジウム http://rsj.or.jp/rsj2011/special.html#shinsai を実施致しました。</p>
<p>ヒューマンインタフェース学会</p>	<p>【HI2011シンポジウム(9.13-16)】</p> <p>パネル討論(9.15 11:00-12:50)「災害時のコミュニケーション」 WS3(9.13 17:15-)「「助ける」ためのコミュニケーションインタフェース」 WS4(9.13 17:15-) 「災害看護とヒューマンインタフェース」</p>
<p>品質工学会</p>	<p>【QES2011(6.22-23)】</p> <p>特別企画(6.23 13:00-14:20) 東日本大震災 緊急報告会 大会実行委員長が司会を務め、大震災で大きな影響を受けた、(株)IHI、アルプス電気(株)、東北リコー(株)、宮城教育大学から復旧・復興の実体験を語ってもらい、それを基に大震災と品質工学の関わりを議論した。</p>